

8206 ある日、電車の中から一人の女友達を・・・

ある日、電車の中から一人の女友達を見つけました。とくに親しい人でなく、学校で同じ勉強をしているというだけのその人は、ちょうど線路一つへだてた向こう側のホームに立っていました。

何の変哲もない駅でした。その人の服装も普通でした。私とは逆の方向へ電車に乗って行くらしく、少し風に髪をそよがせてホームの白線ぎりぎりのところにたっていました。

秦 恒平『優る花なき』

[許容訳例]

One day, from inside the train, I saw a friend, a girl. She was not a particularly intimate friend: I just studied the same subject as her at school. She stood on the opposite platform, just across the tracks.

It was not at all special station. She was dressed quite ordinarily, too. It seemed she was taking the train in the opposite direction. With her hair blowing slightly in the wind, she stood very close to the safety line on the platform.

[翻訳例]

One day, looking out of the train, I caught sight of an acquaintance, a girl. She was not a particularly close friend, but happened to be taking the same subject at collage; now, she was standing on the opposite platform just across the tracks.

There was nothing at all special about the station. Her clothes, too, were perfectly ordinary. It seemed she was taking the train in the opposite direction. Her hair lifting slightly in the breeze, she stood right up against the white safety line on the platform.

■ある日、電車の中から一人の女友達を見つけました。(8206)

★「ある日」は one day でいいでしょう。

★「電車の中から」は from (inside) the train とか (looking) out of the train でしょう。from within the train は「電車の中に閉じこもっている」という感じですから使わない方がいいでしょう。なお、a train ではなく the train にするのは「自分の乗っている電車」という意味にするためです。

★「一人の女友達」は a friend of a girl とか a friend, a girl でもいいのですが、すぐ後で「とくに親しい人ではなく」のところで friend を使いたないので、an acquaintance, a girl にします。なお、a girl friend とすると、「親しい女友達 (の一人)」というイメージになるので、後の「とくに親しい人ではなく」と合わなくなります。

★「・・・を見つけました」は、別に探していたわけではなく偶然見つけたという場面ですから I caught sight of...が一番いいです。I happened to see...でもいいし、I saw...でもいいでしょう。I found a girl friend は駄目です。「女友達ができた」という意味になってしまいます。

■とくに親しい人でなく、学校で同じ勉強をしているというだけのその人は、ちょうど線路一つへだてた向こう側のホームに立っていました。(8206)

★「とくに親しい人でなく・・・」を she is not so intimate a friend…でも間違いではありませんが、日本語の通り she is not a particularly close friend とする方がいいと思います。まず、not so…は、会話では「・・・と思われるかもしれないが、それほど・・・ではない」という文脈で使うものです。つまり、相手が言ったことに対して使うことが多いのです。それから intimate より close がいいと思います。ここで intimate を使っても別に変な意味にはなりません、特に男女の場合 be intimate というとはっきり have sexual relations という意味になりますし、そういう風に読まれてしまう危険性があります。

★「学校で」はアメリカなら at school と言うかもしれませんが、イギリスなら、大学の場合 at collage を使うでしょう。

★「同じ勉強をしているだけの・・・」は「同じ科目をとっているだけの・・・」と解釈して she was just taking[studying] the same subject とか、I was just studying the same subject as her とかでいいのですが、言外に「たまたま（・・・しているだけの）」が感じられるので just happened to be taking[studying]…としたくなります。

★「ちょうど線路一つへだてた」は just across the tracks (from me) です。just across は「一つへだてた」と言うときによく使う表現なのですが、just という言葉が日本語の「一つ」に相当すると思います。たとえば、He lives in a house just across the road from the hotel. (彼はホテルから道一つへだてた家に住んでいる) のように使います。H. E. Bates の短編 The Wedding Party の印象的な場面の描写で使われていたように覚えています。それから「線路一つ」という場合、普通、線路が一本ということではないでしょうから the tracks と複数にすべきです。

★「向こう側のホームに立っていました」は she was standing on the opposite platform です。ここは前の「見つけました」に連動して「見つけたとき・・・していました」(過去の動作+背景動作)ですから was standing (過去進行形)です。

●連帯修飾節の処理

「とくに親しい人でなく、学校で同じ勉強をしているというだけのその人」の「の」は「である」の代用短縮形ですから、ここは「とくに親しい人でなく、学校で同じ勉強をしているというだけであるその人」ということで、「連体修飾節(とくに親しい人でなく、学校で同じ勉強をしているというだけである)+特定体言(その人=彼女)」となりますから、「分詞構文+特定(代)名詞」か「特定(代)名詞+コンマ関係詞節」で処理するところなのですが、連体修飾節の中が「AではなくB」(not A, but B)で、どちらの形にも変換しにくいのです。「連体修飾節+体言」を日本語の一種の癖と考えると、たとえば、「朝六時に起きた僕は歯を磨[き], 顔を洗[い], [そして]・・・」(Upon waking up at six this morning, I brushed my teeth, washed my face and…)は「僕は朝六時に起きて, 歯を磨[き], 顔を洗[い], [そして]・・・」(I woke up at six this morning, brushed my teeth, washed my face

and…)と言い換えて変換することが出来ます。これと同じように、ここの「連体修飾節＋特定体言」を「彼女はとくに親しい人でなく、学校で同じ勉強をしているというだけであるが、その人が（まさに）・・・に立っていた」と言い換えると、She was not a particularly close friend, but just happened to be taking the same subject at collage; now, she was standing on the opposite platform just across the tracks.と変換することが出来て、元の「・・・のその人」という表現意図を now に含ませて表すことができます。翻訳というのは、原文に示されている表現意図まですくい取って変換することです。

■何の変哲もない駅でした。(8206)

★「何の変哲もない駅でした」の「何の変哲もない」は、辞書には「変哲もない」に commonplace; ordinary が出ていますから It was ordinary station. でもいいのですが、「ない」という否定的なニュアンスがなく何だかストレート過ぎて面白くありません。否定語を入れて It was not at all special station. でもいいのですが、日本語の「何の変哲もない」に一番近い英語の表現は There is nothing (at all) special about (the station). です。これは人に対しても使えるので、一つのイディオムとして覚えておいていい表現です。

■その人の服装も普通でした。(8206)

★「その人の服装も普通でした」は She was also dressed ordinarily. と書くことができそうです。しかし、この英文は、たとえば、かぶっている帽子がごく当たり前の物でそれに着ている洋服も普通のものだと言う場合か、あるいは別の女性の服装と比べて彼女のも同じだという場合のどちらかの意味になり、その二つの違いはイントネーションで表すのですが、ここの「も」は前の文に関連して「その駅もその人の服装も」と対比させている「も」なので、日本語に合わせて「その人の服装も」を主語にするといいと思います。ただ、Her dress…とすると、服装のことなのかドレスのことなのかわからなくなってしまうので clothes (着ているもの) を使って Her clothes, too, were…の方がいいと思われます。それから、日本語でも「変哲もない」という時に「何の」を付け加えたいくなりますが、英語でも ordinary だけでなく perfectly[quite] ordinary と言いたくなってしまうです。

■私とは逆の方向へ電車に乗って行くらしく、少し風に髪をそよがせてホームの白線ぎりぎりのところにたっていました。(8206)

★「私とは逆の方向へ」は (going) in the opposite direction (for me) でしょう。なお、「逆」は一つなので定冠詞です。また、opposite の代わりに another も使えます。

★「電車に乗って行く」は take[get on] the train です。この場合、the train ではなく a train でもいいでしょう。

★「らしく」→「らしかった」ですが、It seemed か apparently です。was likely to…は、ここで使うと、たとえば、She was likely to take the train. と言うと「彼女が電車に乗りそうに思われてならない」という感じになってしまいます。be likely to…は、いろいろな状況から判断して「・・・しそうに思われる」という感じで使うのです。たとえば、Since we haven't had any rain for a whole month, it's likely to rain in the near future. とか、He forgot his book

when he left, so he is likely to come again this evening.というような使い方をする表現です。
「・・・らしい」は「・・・と思われる」と「・・・する気配がある」と分けて考える必要があるのです。

◆「以後」の表し方

「電車に乗って行けらしく・・・」とは、「以後」の行動ですが、ここでは It seemed she was getting on [taking] the train とするのが一番自然と思われます。つまり、she intended to [was going to] take the train という意味です。ここを It seemed she would take the train…とすると、これから彼女がどうするだろうかと考えた場合に状況から判断して彼女は電車にのるだろう、というニュアンスになると思われます。たとえば、It seemed she would hit him, but she controlled herself and turned away.というような使い方と同じで、彼女が電車に乗ることはもう決まっている感じですから、ここで would は使えないのです。それから was to…も使えません。It seemed she was to take the train…とすると、彼女の意志ではなく、また誰かが決めたということでもなく、そういうことになっているらしいという感じで、この場合には当てはまらないと思われます。また、It seemed she was going to…という言い方は、‘彼女が実際に・・・しようと言った [彼女にそう言われた]’というニュアンスで「・・・のつもりだったらしい」という場合と、It seemed she was going to get on the train, but at the last moment she turned and walked away.のように、「まさに・・・しようとしているように見えたが、・・・」という感じの場合に使うものです。非常に微妙な問題なのですが、やはりここは It seemed she was getting on [taking]…という形しかないと思います。

● [く]

この「・・・らしく」の [く] は処理しにくい切り方です。前半は主観的感想であり、後半は現実の動作です。and でも結びにくいので、ここは切って、二つの文に分けるのが賢明な処理と思われます。

★「少し」は、ここでは slightly でしょう。

★「風」は the wind でも the breeze でもいいでしょう。

★「髪をそよがせて」は難しい。辞書では「そよぐ」に rustle; stir; sway; waveなどを当てていますが、rustleは音を伴うし、sway; waveは「揺れる」です。stirはA soft breeze stirred the leaves. (そよ風が木の葉をそよがせた。)という例もあって使えそうですが、人間に使うと、じっと立っている人とか死んでいる人とかの髪の毛がstirしているイメージになります。髪の毛の場合、根元は動かないのですからflowもfloatも駄目です。仕方なく、「(起き)上がる・跳ね上がる」という意味になるliftを使うことにしました。

★「ホームの白線」ですが、「白線」は日本だけですから the white lineでは通じません。the safety line on the platformとか the white safety line on the platformとすることになります。

★「ぎりぎりのところに」はvery close to…でも意味としてはいいのですが、日本語の「ぎりぎりの」という感じを出すならright up against…とかas close as she could get to…の方がいいのではないかと思います。

★「たっていました」は she was standing…ではなく she stood…です。最初の「見つけたとき・・・していました」と違って、ここでは時間との関連性を別に強調する必要はないからです。